

コロナ決算

コロナは何を奪い、何を残したのか

ギカイ議論

コロナ禍でも暮らしを守る！



問 町内防犯灯2830基全てをLED化した効果は。

答 年間で電気代407万円減。維持管理費177万円減。合計で584万円の減額。またCO₂排出量は年間で159トン減となり、カーボンニュートラルにも資することになる。

問 住宅改修資金補助制度。改修件数と事業効果は。

答 56件の補助を行い、約7400万円の事業効果があつた。

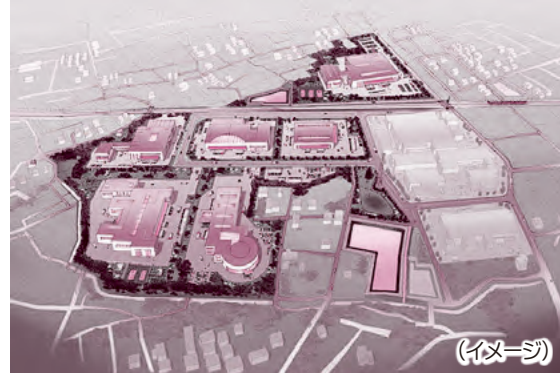


問 コロナ禍で売上げが減少した事業者を支援する小規模事業者支援事業を2回行った。今後も実施する考えはあるか。

答 国からの補助金等の動向や今後の状況を見極めて検討していく。

問 大規模盛土安全確認事業の実施状況は。

答 県が実施した調査を基に、大規模盛土の現地踏査を行い、危険度等を調査。また、今後さらに詳細な調査を行うため、調査の優先度評価を行った。



(イメージ)



人間の経済活動のほとんどは 他者との「再起動」の原動力はどこにあるのか？

つながりがなければ不可能。行動抑制によって左右された個人消費。「明けない夜はないこと」を信じて、進む。

ギカイの視点

感染防止と経済の両立、難しく

くらしや仕事の中で人流を抑制しつつ、経済も回していかなければならないという難しい分野。

町民1人に10万円の支給や小規模事業者への緊急支援、店舗の休業補償など、国からのさまざまな支援はあったが、感染拡大には歯止めがかけられなかった。「人の移動の自由」という根源的な権利の制限が妥当であるか否か、その際の補償は十分できるのか、感染症等の対策に課題と教訓を残す結果となった。



わたしもひとこと

自粛による巣ごもりで農産物直売所は売上増。高齢化で農家は減。若者が興味を持ち、やりがいのある農業・事業へ支援をお願いします。
新堀宣洋さん【男会】

コロナ禍でも

できたこと・実施したこと ※（ ）事業額

- 特別定額給付金 ※1人10万円（33億円）
- 子育て世帯臨時給付金 ※1人1万円（3458万円）
- ひとり親世帯臨時給付金 ※1世帯5万円（1879万円）
- 避難所開設キット購入（37万円）
- 電子図書館（1121万円）
- 水道基本料金50%減額（4335万円）
- 小規模事業者緊急支援（1億2885万円）
- 防犯灯LED化 ※10年リース（6758万円）
- 行政区・感染症対策（662万円）

ここに注目！

蔵書冊数19万5335冊に対し、電子図書は2784点。利便性向上に一歩前進。

新型コロナの影響で

できなかったこと・縮小したこと

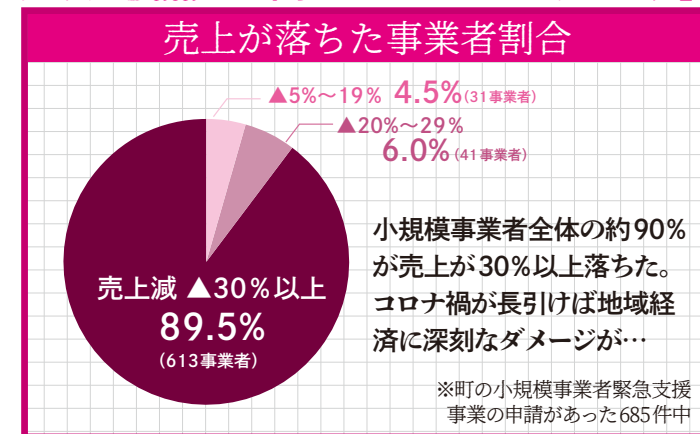
※（ ）減少額

- 防災訓練（▲60万円）
- 桜沢産業団地 2社辞退
- 公民館運営事業（▲537万円）
- ごみゼロ運動

ここに注目！

5社進出の予定が、コロナ禍の影響で2社辞退。5区画すべてでの操業が待たれる。

注目のData 「9割が30%以上の売上減」



令和2年度決算

支出をひもとく

くらし産業編

人流減で大打撃!!

町民1人に10万円支給。新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金3億7230万円。国からの大きな支援はあったものの、くらし・産業は大混乱。二度の緊急事態宣言発出も感染拡大はおさまらず。

仕事柄、影響が少なくて助かりますが、飲食業の友人たちは苦境に喘いでいます。正直者が馬鹿を見ないように……折笠賢太さん（鉢形）

早く乾杯したい！

